

職業実践専門課程の基本情報について

学 校 名	設置認可年月日	校 長 名	所 在 地			
国際動物専門学校	平成9年1月27日	下 藪 恵子	〒154-0014 東京都世田谷区新町2-1-5 (電話) 03 (5430) 4400			
設 置 者 名	設立認可年月日	代 表 者 名	所 在 地			
学校法人 シモゾノ学園	平成9年1月27日	下 藪 恵子	〒154-0011 東京都世田谷区上馬4-3-2 (電話) 03 (5430) 4400			
目 的	動物医療現場で求められる動物看護師の業務と役割は多様化され、動物栄養学自体の知識はもちろんの事、加えて家庭飼育動物の健康を維持し、予防獣医学のための食事指導ができる知識と能力を兼ね備えた動物看護師が必要とされている。そのため、獣医療現場のみならず家庭飼育動物の生涯に渡るライフスタイルに適した栄養管理指導ができる知識と技術を習得した動物看護師の人材育成を目指す。					
分野	課程名	学科名	修業年限 (昼、夜別)	全課程の修了 に必要な総授 業時数又は総 単位数	専門士の付与	高度専門士の付与
文化・教養	動物管理 専門課程	動物看護・ 栄養学科	2年 (昼)	2,400単位時間 (又は単位)	平成23年12月22日 文部科学省 告示第166号	—
教育課程	講義	演習	実験	実習	実技	
	1,390 単位時間 (又は単位)	80 単位時間 (又は単位)	単位時間 (又は単位)	930 単位時間 (又は単位)	単位時間 (又は単位)	
生徒総定員	生徒実員	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
80 人	80人	10 人	5 人	15 人		
学期制度	■前 期：4月1日～9月30日 ■後 期：10月1日～3月31日		成績評価	■成績表 (有・無) ■成績評価の基準・方法について 試験による		
長期休み	■学年始め：4月1日 ■夏 季：7月24～8月31日 ■冬 季：12月23日～1月8日 ■春 季：3月22日～4月9日 ■学 年 末：3月31日		卒業・進級条件	修了すべき学科目について試験を行い、合格者に対して当該学科目の修了を認定する		
生徒指導	■クラス担任制 (有・無) ■長期欠席者への指導等の対応		課外活動	■課外活動の種類 国際どうぶつ祭 等 ■サークル活動 (有・無)		

就職等の状況	<p>■主な就職先、業界等：動物業界（動物病院等）</p> <p>■就職率※¹100.0%</p> <p>■卒業者に占める就職者の割合※²88.2%</p> <p>■その他（任意）</p> <p>（平成27年度卒業者に関する平成28年5月時点の情報）</p>	主な資格・検定	認定動物看護師
中途退学の現状	<p>■中途退学者 3名 ■中退率 3.61%</p> <p>平成27年5月1日在学者 83名（平成27年4月入学者を含む）</p> <p>平成28年3月31日在学者 80名（平成28年3月卒業生を含む）</p> <p>■中途退学の主な理由 経済的、進路変更、健康問題等</p> <p>■中退防止のための取組 経済的支援、担任・スクールカウンセラーによる相談</p>		
ホームページ	URL: http://iac.ac.jp		

※1 「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職（内定）状況調査」の定義による。

- ①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものとする。
- ②「就職率」における「就職者」とは、正規の職員（1年以上の非正規の職員として就職した者を含む）として最終的に就職した者（企業等から採用通知などが出された者）をいう。
- ③「就職率」における「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まない。

※「就職（内定）状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等としている。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除いている。

※2 「学校基本調査」の定義による。

全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいう。

「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいう。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしない（就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う。）

1. 教育課程の編成

(教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

動物看護師として臨床の場で獣医師を責任者とする共同体制の中で働く時に、獣医師との職域の相違をしっかりと認知する。

動物看護師が遂行すべき業務を完璧に目指して成し遂げることができるようにし、動物看護学実習の充実を図るための連携を行う。

動物の、症状や治療法について家族に担当獣医師から説明をした後の対応を担う事になる動物看護師の飼い主家族教育について、臨床の実際例を挙げてもらいながら指導を受ける。

(教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成 28 年 4 月 1 日現在

名 前	所 属	名 前	所 属
下 菌 恵子	国際動物専門学校教職員	赤石 愛子	国際動物専門学校教職員
下 菌 智一	国際動物専門学校教職員	佐藤 理子	国際動物専門学校講師
今西 孝一	国際動物専門学校教職員	笹木 久美子	国際動物専門学校教職員
大坪 利久	国際動物専門学校教職員	渡辺 直子	国際動物専門学校教職員
吉川 鉄平	国際動物専門学校教職員	細井戸 大成	公益社団法人 日本動物病院協会 会長
山下 真理子	国際動物専門学校教職員	小林 孝之	アニマルクリニックこばやし 院長
大木 隆昌	国際動物専門学校教職員	上野 弘道	株式会社日本動物医療センター グループ最高執行責任者
川口 絵津子	国際動物専門学校教職員	田中 健司	株式会社西武ペットケア 代表取締役社長
栗島 みゆき	国際動物専門学校教職員	武宮 臣佐	アバロン・ヒルサイドファーム株式会社
和知 教之	国際動物専門学校教職員	須山 雄次	犬の保育園 FIELD U 代表
黒田 ミユキ	国際動物専門学校教職員		

(開催日時)

第 1 回 平成 28 年 6 月 2 日

第 2 回 平成 28 年 8 月 2 日 (予定)

第 3 回 平成 28 年 11 月 22 日 (予定)

第 4 回 平成 29 年 2 月 28 日 (予定)

2. 主な実習・演習等

(実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

飼い主家族に指導教育するためには、人への接し方、コミュニケーション能力が必要となる。そのため、臨床現場の実際を見学し、さまざまなタイプの飼い主家族がいることを知り、対応方法を学ぶ。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
動物臨床検査学実習Ⅱ	開業獣医科病院の診療現場において必要な動物看護技術を向上させ、特に血液検査に必要なテクニックを学ぶ。	日本動物高度医療センター

クライアントエジュケーション	飼い主が動物を適切に処置できるようにするために、適切な説明をするテクニックを臨床現場の獣医師から学ぶ。	成城こばやし動物病院
外科動物看護実習Ⅱ	学園内では充分ではない手術室環境を観察し、実際に行われる手術に関わる整備や準備が遂行できるように体験する。	未定

3. 教員の研修等

(教員の研修等の基本方針)

臨床経験の浅い動物看護師にとって実際の飼い主家族に接する機会が無いので、開業獣医科病院の診療現場に臨み、その実際を体験する。

教職課程を習得するために必要な課程を学ぶために、学外から該当する適任者を招へいして勉強会を企画する。

4. 学校関係者評価

(学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成 28 年 4 月 1 日現在

名 前	所 属
横田 淳子	一般社団法人日本動物看護職協会
田中 健司	株式会社西武ペットケア
丸山 一夫	国際動物専門学校卒業生
大江 記代子	国際動物専門学校保護者

(開催日時)

第 1 回 平成 28 年 4 月 28 日

第 2 回 平成 28 年 8 月 30 日 (予定)

第 3 回 平成 28 年 10 月 4 日 (予定)

(学校関係者評価結果の公表方法)

URL:<http://iac.ac.jp>

5. 情報提供

(情報提供の方法)

URL: <http://iac.ac.jp>

授業科目等の概要

(動物管理専門課程 動物看護・栄養学科) 平成 28 年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技
○			7つの習慣 J	7つの習慣 J を使い、人間力・社会人力の養成をおこなう	1	30		○ (20)	△ (10)	
○			就職セミナー (7つの習慣 S)	就職ガイダンス、就職セミナー、社会人力養成をおこなう	2	15		○		
○			ペット産業・経営学 I	動物産業のマーケティングとマネジメントの基礎を学ぶ	1	15		○		
○			ペット産業・経営学 II	動物産業のマーケティングとマネジメントの実践を学ぶ	2	15		○		
○			パソコン実習	基本的なパソコン操作を学び、ワード、エクセル、パワーポイントを使える知識・技術を学ぶ	2	30		△ (10)	○ (20)	
○			基礎学 I	各種基礎的な計算式を学ぶ	1	15		○		
○			基礎学 II	動物看護師統一認定試験受験を念頭に置き、出題科目の既習内容復習を中心に確実な知識習得を目指して実施する	1	30		○		
					2	30		○		
○			動物行動学 I	①：主に犬猫の発生起源、種類による特徴を知り、行動の進化と発達を知ることができる。 ②：家畜化において必要とな	1	60		○		

			る周期化、行動に影響する生理物質を理解し生殖行動、社会行動について学ぶことができる						
○		動物行動学Ⅱ	動物の臨床行動学の基礎を学んだ上で、伴侶動物の問題行動について学ぶ。その上で人と動物が共生する時に問題となりえる行動について理解し、行動治療の方法を知ることができる	2	30		△ (10)	○ (20)	
○		動物形態機能学Ⅰ	①：動物の生命維持の仕組みと解剖学、生理学の基礎を知り、生命体としての動物を理解できるようになる。また、犬猫以外の動物の解剖を比較する。さらに解剖学用語を習得し生命現象を理解できるようになる。 ②：血液の循環とその調整に関わる分野、および呼吸について学ぶことができる	1	60		○		
○		動物形態機能学Ⅱ	①：血液とその造血器、血球、血漿成分、骨髄の形態に関する基礎知識を得る。また、免疫系の基本的仕組みを学習し生体防御機構を学ぶことができる ②：情報の受容と処理について基礎知識を学ぶ。感覚と情報の伝達について学ぶ。体の指示と運動について学ぶ ③：栄養の消化と吸収については消化器の構造と機能を学び基礎知識を得ることができる。内臓機能の調整では自律神経系と内分泌による調整を学ぶ。体液調整、尿の生成では腎臓機能を知ることが出来る	2	90		○		

○		病原体・衛生管理 I	病原体になりうる微生物の感染症予防法を学び、動物の健康維持に活用できる知識を得る	1	30	○		
○		公衆衛生学 I	公衆衛生の基本的な考え方を学習し、国民の健康増進、動物福祉、環境保全などに活かせる知識を学ぶことができる。獣医療現場で働く上で重要な人獣共通感染症（ズーノーシス）についてその病気の発生、原因、背景、予防の努力について学ぶことができる	1	30	○		
○		動物感染症学 I	主にイヌ・ネコに感染する内部寄生虫、外部寄生虫について知識を習得し、それらによって発症する動物の疾病予防と罹患動物の看護に活かせるよう知識を学ぶ	1	30	○		
○		動物感染症学 II	主にイヌ・ネコに感染する微生物について学び、微生物が原因で発症する動物の疾病予防と罹患動物の看護に活かせるような知識を学ぶ	2	30	○		
○		動物看護学 I	①：動物看護とは何か、対象は何か、を知ることにより獣医師の補助をするだけでなく、動物の一生に関わる動物看護について知ることから始まる基礎を学ぶことができる ②：動物看護技術とは何か、どんなものがあるのか、を知ることができる。アセスメント、計画立案、実行、評価を繰り返すことによる動物の看護について事例を踏まえて学ぶことができる	1	60	○		

○		動物健康管理 I	健全なイヌ・ネコに必要な日常のケアと適正飼育法について学び、個体に合った適正飼育に努めるよう飼い主への指導ができるような総合的知識を学ぶことができる	1	15	○		
○		臨床動物看護学 I	①：1年次習得した動物看護学を復習するために動物看護学概論を学んだ上で、症状別の看護について学ぶことができる ②：各機能障害（循環器、呼吸器、栄養代謝、内部環境調整機能、生体防御機能、感覚器）を持つ動物の看護について学ぶことができる ③：各機能障害（神経運動、繁殖、排泄）を持つ動物及び担がん動物、高齢動物、周術期動物の看護に活かすための知識を習得し、経過に基づく動物の看護について学ぶことができる	2	90	○		
○		動物入院管理 I	入院動物について十分な情報を把握し、極力ストレスの無い入院生活を送れるよう管理に活用できる基本的技術を学ぶことができる。動物の在宅看護や在宅獣医療のサポートを飼主が望む場合の指導ができるようになる	1	30	○		
○		動物福祉論 I	生命倫理を基本に人と動物が共生するために必要な倫理学の理念を学ぶ	1	15	○		
○		動物人間関係学	人と動物の絆（HAB）の理念と動物介在活動、動物介在療法、動物介在教育など社会活動を理解し、人と動物共生について学ぶ	1	15	○		

○		動物繁殖学 I	主にイヌ・ネコの繁殖生理を理解し、性行動、妊娠、分娩及び避妊・去勢が必要な理由を知る。伴侶動物の助産と性別疾病予防について学ぶことができる。また、イヌ・ネコ以外の動物の繁殖生理の特徴を学ぶ	2	15	○		
○		救急救命対応 I	動物のエマージェンシー（緊急時）の見極めができ、チームで動く緊急時の一員として処置に参加でき、その場に必要準備が速やかにできるようになるための知識と技術を習得する。トリアージを学び、救急救命の場面を想定し、落ち着き且つ適切速やかに行動できるようになるために学ぶ	2	15	○		
○		動物病理学 I	動物の発病メカニズムと症状の病理学的特徴を学ぶことにより、動物を看護する上で必要な、容体の近い将来を予想することができるようになり、より適切な看護計画立案をするための知識として活用できる	2	30	○		
○		動物疾病看護学 I	主に犬猫のバイタルサインを取るために必要な、各器官系の代表的な疾病について学ぶ。獣医療のチーム医療の場で、カルテにある病名や診断名、治療方針の理解度を高めるために必要な知識として、疾病について学ぶ。	1	60	○		
○		動物疾病看護学 II	器官系の疾患については、特有の検査、看護内容を知るために必要な内容を学び、実践に活かせるよう知識を習得する。疾患によっては、好発種、好発年齢があるのでその	2	60	○		

			ポイントをおさえつつ、症状、動物への看護技術を学ぶことができる						
○			動物栄養学Ⅰ 基礎栄養素及び主にイヌ・ネコに必要な栄養素、ペットフードの基本的知識、健康維持と疾病予防につながる動物栄養学の知識を得ることができる。そのために必要なライフステージ別の栄養管理ができるようになる	1	30		○		
○			動物栄養学Ⅱ 家庭飼育動物に必要な動物栄養学を学び、その基礎知識を活用して特別療法食の標記が読めるようになり、疾患別によるフードのタイプ、投与方法を知ることができる	2	60		○		
○			院内コミュニケーションⅠ 動物関連業界に適した思いやりを基本とし、受付業務、院内コミュニケーション、電話対応の基礎を学ぶ	1	30		○		
○			院内コミュニケーションⅡ 動物関連業界に適した思いやりを基本とし、受付業務、院内コミュニケーション、電話対応の実践力を学ぶ。演習が含まれるため45時間の授業時数とする	2	45		△ (15)	○ (30)	
○			動物薬理学Ⅰ 薬の作用機序と有害作用並びに獣医療現場で使用される主な薬剤の特性を学び、薬剤を正しく扱うことを目指して学ぶ。薬理学と薬物学に分けて学ぶ	1	30		○		
○			幼齢動物・老齢動物管理学Ⅰ 主にイヌ・ネコの新生仔期から幼年期の管理について学び、それらの動物に発症する可能性がある疾病の予防と看護に活かす。また老齢動物の管理、介護技術を学び飼い主に寄り添った在宅看護に	1	30		○		

				ついて学ぶ					
○			動物医療関連法規 I	主に獣医療現場及び動物関連の法規について知識を持ち、動物福祉と安全な社会づくりに貢献し専門職として遵守の精神を養う姿勢を学ぶ。また、社会人として知っておくべき法規について学ぶことができる	1	30		○	
○			動物臨床検査学 I	基本的臨床検査学の理論を学び、関係する精密機器のシステムを知り、安全精巧に管理ができるようにする。各種検査の目的と意義を知り、実施する際の技術理論を知ることができる	2	30		○	
○			クライアントエデュケーション I	人と動物のより良い共生と家庭飼育動物が快適安全に生活（闘病）できることを目指し、専門職の観点から飼い主指導に活かせるようになる。既習学科の知識を活用し、個別性を重んじた飼主教育に活かせるようになる。指導者が飼主から信頼を得られるための対人技術を学ぶ	2	30		○	
○			飼養管理学 I (エキゾチック アニマル編・産業動物編)	実験動物・産業動物・展示動物の社会的役割と目的及び野生動物と環境保全を知ることができ、動物福祉の観点から人と動物の共生について活用できるようになる	1	30		○	
○			飼養管理学 II (エキゾチック アニマル編・産業動物編)	伴侶動物となり得るウサギ、小鳥、ハムスター、モルモット、フェレットについて生理と生態から適性飼育法及び主な疾患について習得し、看護と飼い主指導について活用できる知識を学ぶことが	2	30		○	

			できる						
○		看護看護実習 I	動物の看護に携わる者としてふさわしい清潔な身なり、姿勢とは何かを学び、基礎で習得した知識の実践として、診療現場に必要な基本的手技の習得を目指す。	1	90		△ (15)		○ (75)
○		看護看護実習 II	動物看護実習 I で習得した動物看護に携わる姿勢を踏まえて動物看護の事例を想定した実践能力を磨き、臨床の場では応用力を用いて正確性、迅速性を持って動けることを目指す。また、手順や要領を考慮した行動から問題解決能力や看護実践能力の習得を目指す	2	90		△ (15)		○ (75)
○		動物臨床検査学実習 I	基礎で習得した理論知識の実践として、動物診療現場に必要な検体検査及び動物の生体検査に関する基本的手技が発揮できるよう繰り返し技術習得を目指す。	1	60		△ (10)		○ (50)
○		動物臨床検査学実習 II	動物臨床検査学実習 I での実践能力に応用力を用いて正確性、迅速性を増し、臨場で手順や要領を考慮した検査能力が発揮できるよう更なる鍛錬を積む	2	60		△ (10)		○ (50)
○		外科動物看護実習 I	獣医療現場でルーチンに行われている基本的な外科手術の流れを知り、手術準備を含む周術期管理技術を習得する。実際の外科手術見学をする機会を持つ	1	30		△ (10)		○ (20)
○		外科動物看護実習 II	外科動物看護実習 I の経験の上に自主的実践能力と応用力を発揮できるようにな	2	60		△ (10)		○ (50)

			る。正確性、迅速性を習得できるよう更なる技術の習得を目指す					
○		動物飼育実習 I	実際に動物を世話することで動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を養う。また衛生管理、備品管理、基本的な動物のハンドリングを身に着けトレーニングに活かす。さらに手順や要領を考慮した行動から問題解決能力や看護実践能力を活用できるようにする	1	60	△ (20)		○ (40)
○		動物飼育実習 II	動物飼育実習 I での経験を活かし、更なる実践能力と応用力を培い、正確性、迅速性を目標にして習得する	2	30			○
○		美容実習 I	家庭飼育動物の入院生活や家庭生活環境における衛生的管理に必要なグルーミング技術の基礎を習得できる	1	225	△ (30)		○ (195)
○		美容実習 II	美容実習 I の技術を向上させ、グルーミングの応用力習得を目指す	2	195	△ (30)		△ (165)
○		総合臨床実習 (インターンシップ) I	インターンシップによる学外実習において、実践力習得を目指す	1	60			○
○		総合臨床実習 (インターンシップ) II	インターンシップによる学外実習において、臨床の場での更なる実践力向上を目指す (学習目標事項表が提示できる)	2	120			○
合計				49 科目		2400 単位時間		